

特別支援学校を拠点とした障害者スポーツの振興 ～障害者スポーツの振興と地域交流の推進～

県立八日市場特別支援学校

1 研究課題について

「令和元年度県立特別支援学校研究指定事業」を受け、特別支援学校の児童生徒にとって障害者スポーツをより身近なものとするともに、スポーツを通じた地域との交流の推進により、障害のある人との社会参加や障害に対する理解を深めるための実践を行った。

2 研究の方法について

「オリンピック・パラリンピック関連の授業を通じた競技体験や近隣小学校や大学生との交流」「アスリートによる生徒との交流」「高等部卒業後の生涯スポーツを見据えた取り組み」「教職員を対象としたパラリンピック競技の講習会」の四つを柱に研究実践を行った。

3 実践と成果について

(1)オリンピック・パラリンピック競技の体験

これまで経験の無かった競技の体験をし、ルール等を工夫したことで自分から取り組む姿勢や他者と関わる姿が多く見られた。

(2)近隣小学校とのTスローを通じた交流

交流前は、相手校の子供たちもコミュニケーション面での不安を感じていたが、2回の交流会を経て、次第に打ち解け、競技を楽しむことができた。

(3)県内学生団体「おりがみ」との交流

学生の考えたオリジナル競技等を一緒に行う中で大学生とも打ち解けて楽しむことができた。また、本校文化祭（きらら祭）でボッチャ体験ブースを設置し、「おりがみ」の活動も知ってもらう機会となった。

(4)北総地区特別支援学校駅伝大会でのアスリート（元東洋大学 柏原竜二氏）との交流

柏原さんから直接の応援や駅伝の楽しみ方を教えていただいたことで走ることへの向上心へとつながった。

(5)卒業後の障害者スポーツへの取組

学校体育から生涯スポーツへという視点から県内陸上競技会に出場。大会出場する中でいろいろな選手から刺激を受け、卒業生も一緒に練習し、大会出場を目指した。

(6)教職員を対象としたシッティングバレーボール講習会

地域の小・中・特別支援学校職員に対し、実技を中心とした中で「千葉パイレーツ」の講師の方々からルールや技術指導を受けた。

4 今後の課題について

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、児童生徒が興味・関心をもてるよう、いろいろなスポーツに取り組める環境づくりを行ったが、授業の継続性や様々な実態をもつ児童生徒への対応を考えていくことが必要である。

